

# 泌尿器科紀要

第 26 卷 第 12 号

1980年12月



泌尿器科領域における尿中 Prostaglandin E の検討.....飯星 元博・ほか...1469

Urodynamic 検査による骨盤腔内手術後の膀胱機能障害の研究.....川村 寿一・ほか...1477

膀胱癌に対する局所注入療法について

第2報: OK-432 局注療法の効果.....西尾 正一・ほか...1485

肺転移巣の容積変化よりみた尿路性器癌の治療評価について.....林正 健二・ほか...1501

睾丸腫瘍における血清 marker

—血清 AFP の理論的および実測減衰線の臨床的意義—.....荒川 創一・ほか...1505

交叉性腎変位に合併した石灰化壁を有する単純性腎嚢胞の1例.....岡田 裕作・ほか...1513

アンジオテンシンⅡアナローグテスト陰性であった

腎血管性高血圧症の1例

—(付) 本テスト施行16例(腎性および腎血管性高血圧症例)の検討—.....西淵 繁夫・ほか...1521

膀胱後部から発生した Malignant Fibrous Histiocytoma の1例.....細木 茂・ほか...1529

睾丸細網肉腫の3例.....荒木 博孝・ほか...1537

高山赤十字病院泌尿器科における臨床統計

(1978年5月~1979年12月).....兼松 稔・ほか...1545

前立腺癌に対する酢酸クロルマジノンの臨床効果.....志田 圭三・ほか...1553

Thromboelastogram からみた男性老人に対する

Gestagen 剤の長期投与成績

—Chlormadinone acetate について—.....大井鉄太郎・ほか...1575

前立腺癌に対する Estramustine Phosphate (Estracyt)

療法の臨床的, 内分泌学的検討.....藤井 浩・ほか...1587

Clinical Studies on Urinary Prostaglandin E Excretion in Patients with Urogenital Diseases.....M. Iihoshi et al...1469

Investigation of Bladder Dysfunction Following the Intrapelvic Operation for Carcinoma Using Urodynamic Examinations .....J. Kawamura et al...1477

Treatment of Bladder Carcinoma by Local Injection

II. Evaluation of OK-432 Local Injection.....S. Nishio et al...1485

Evaluation of Treatment of Urological Cancer, Using the Change in the Volume of Pulmonary Metastasis .....K. Rinsho et al...1501

Serum Marker of the Testicular Tumor

— Clinical Value of Theoretical Decay Curve (TDC) and Actual Decay Curve (ADC) of Serum AFP —.....S. Arakawa et al...1505

Crossed Renal Ectopia with Fusion Associated with Calcified Simple Renal Cyst: A Case Report.....Y. Okada et al...1513

Renovascular Hypertension with Negative Response to Angiotensin II Analogue Test: Report of a Case .....S. Nishibuchi et al...1521

Retrovesical Malignant Fibrous Histiocytoma: Report of a Case.....S. Saiki et al...1529

Reticulum Cell Sarcoma of the Testis: Report of Three Cases.....H. Araki et al...1537

Statistical Observations on Out-Patients, In-Patients and Operations at the Urological Department of Takayama Red Cross Hospital (from May, 1978 to December, 1979).....M. Kanematsu et al...1545

Clinical Evaluation of Chlormadinone Acetate for Prostatic Carcinoma.....K. Shida et al...1553

Result of Thromboelastogram by Prolonged Period Medication of Gestagen on the Aged Male .....T. Ohi et al...1575

Therapeutic Effects and Endocrinological Studies on Estramustine Phosphate Therapy in Patients with Prostatic Carcinoma.....H. Fujii et al...1587

泌尿紀要  
Acta Urol. Jap.

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.  
Department of Urology, Faculty of Medicine,  
Kyoto University, Kyoto, Japan 600  
京都大学医学部泌尿器科学教室

帯出  
到着後 1ヶ月間

## 編 集 後 記

「本も読まなくてはならぬ。考えてもみなければならぬ。併し働くことはより大切である。凡人は働かなくてはならぬ。働くことは天然に親しむことである。天然を見つめることである。斯うして始めて天然が見えるようになる。」—古武弥四郎博士—

“The master word in medicine is work: The stupid man among you it will make bright, the bright brilliant, and the brilliant student steady.” —Sir William Osler—

東西の医学が同じことをいっている。医学においてもっとも大切なことは、働くこと、勉強すること、努力することである。

働かずして、勉強せずして、努力せずしてツペコベ言うのが現代の風潮のように思えるのだが、そんなことは医学においては通用しない。

本号は今年の最終号。さあ、新しい年も大いに頑張ろう。

(O. Y.)

## 購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と 5,000 円（送料とも）前納していただきます。  
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

## 投 稿 内 規（1969年1月改正）

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「 』を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。  
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けません。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C,  $\mu$ , %, PH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
  - A 雑誌の場合 著者名：誌名、巻数：頁数、西暦年次。（論文題名は自由です）  
文献名は正式略称を用いてください。  
例：日泌尿会誌、臨床皮泌、皮と泌、泌尿紀要、臨泌；J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
  - B 単行本の場合 著者氏名：書名、版数、Vol. 数、p. 数、発行所、出版地、年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

---

泌尿器科紀要 第26巻 第12号 1980年12月25日 印刷 1980年12月31日 発行  
 創刊 稲田 務 顧問 加藤 篤二 定価 500 円(送料別)  
 発行 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要編集部  
 〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)  
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入

---